

静かな里を揺るがす「幸福の科学学園」建設 市長は何よりも市民の不安に応えるべき



こんにちは

岸本のり子です

発行 日本共産党

天津湖西地区委員会

連絡先 日本共産党天津市会議員

岸本のり子

天津市和邇春日2丁目

ケイタイ 080031163877

2011. 3 / 20
No.101

日本共産党

またたくまに28,000人の反対署名

「幸福の科学学園」が仰木の里東・雄琴北に、学校建設を行うおとしてしていることに對し、納得のいく十分な説明がなく、不安を抱えての署名は2万8千と広がっています。

岸本市議は、「市長が学園側に住民との合意形成をはかるよう、働きかけるべき」と求めました。市長は

「建築の確認は、大津市ばかりではなく民間でもできる」

*「建築確認」は小泉元首相の官から民への構造改革で、行政が責任を負うことが殆どなくなりました。しかし、これにより耐震偽装問題なども起こっています。

「学校の許認可は県の権限。市は口を挟む余地がない」

「学校ができる」とは、まちのにぎわいや活性化になる」

と市民のみなさんの不安を受け止めようとしません。

市長は、直接住民と対話を

岸本市議は「住民の不安を受け止めるためにも、市長は住民の方と直接対話をすべき」と指摘。市長は「時間が合えばいつでも合うと約束。市に法的な権限はなくても、市民の不安に對して最大限の努力と対応をとるべきです。」

11日に発生した東北地方太平洋沖地震により、痛ましい犠牲となった方々に對し、謹んで哀悼の意を表すると共に、被災者のみなさんに心からのお見舞いを申し上げます。

●安心な老人介護は行政の責任

市は、財政支出を削減できることや、これまでの公募による指定管理では、職員の雇用や事業の継続性が見込めないとして市立特別養護老人ホーム榛原の里を社会事業団に譲渡しようとしています。

岸本市議は、営利を目的とする民間に譲渡することで、利用者のサービスの低下や、職員の労働強化につながらないよう、今後も行政としての責任を持つよう強く求めました。

●屋食を食べられない子ども 中学生の屋食、実態調査を

貧困家庭が増え、市PTAが行ったアンケートでは弁当を持っていけない子どもがいることが示されており、岸本市議は市として子どもの現状を調査することを求めましたが、教育長は「お弁当に教育的意義があるという考えに変わりはなく」「アンケートはとるつもりはない」「弁当を持つてこられない子には個々に対応している」と相変わらずの答弁。

給食はすべての子どもたちが平等に、栄養補給や食育を提供できます。早期実施が望まれます。

●暮らしを支える足の確保を

岸本市議は今議会でも、国の交通基本法に基づいて、市として、住民の暮らしを支えるための公共交通の確保を強く求めました。



13日、岸本市議や党支部、党後援会は街頭で救援募金に取り組みました。